

1. 日時：2012 年 8 月 30 日（木） 14:00～17:00

2. 場所：大阪工業大学／大阪センター303 号室

3. 出席者：15 名（敬称略，下線は欠席者）

中塚侑，宮川豊章，西山峰広，佐藤裕一，中村健一，浅川弘一，阿波野昌幸，市岡有香子，井上晋，大下栄吉，及川雅司，寒川勝彦，岸本一蔵，久保善司，坂田博史，島田安章，白濱昭二，杉田篤彦，田中秀人，谷昌典，寺口秀明，中村佳史，服部篤史，濱本哲嗣，日高重徳，丸山一平，三方康弘，吉田正友

学生オブザーバー：林成俊，李在満

4. 配布資料：

1：既存鉄筋コンクリート造建物に対する P C 圧着型外側耐震補強の接合部設計に関する基礎研究（坂田委員）

5. 議事内容：

(1) 「乾燥収縮とクリープにまつわる課題と取り組み」に関してオリエンタル白石（株）二井谷教治様より説明，ならびに質疑応答があった。

（質疑応答）

- ・ 骨材の乾燥状態が影響？
→水和反応に必要な水分が，骨材に吸収されると思われる。
- ・ 垂井高架橋の乾燥収縮は？
→1000 μ 程度。
- ・ 垂井高架橋の耐震補強の付加鉄筋量が 6% とかなり多い。ひび割れが入って当然では？
→当時は一般的だった。ただ，最近は鉄筋量，鉄筋径とも制限。
- ・ 収縮抑制に尿素系の混和剤を使用？（吉田）
→アルコール系を使用。
- ・ 浜名大橋の過大なたわみの原因は？
→不明だが，上端に比べ，下端が乾燥しやすいのも一因か。
- ・ ヒンジを接合すると付加応力が発生しないか？
→発生する。
- ・ コンクリート有効応力の計測は？
→局部は無理なので，中央の代表的な部分で計測。
- ・ 砂岩が悪いとは限らない？
→実施工が一番重要。

(2) 「既存鉄筋コンクリート造建物に対する P C 圧着型外側耐震補強の接合部設計に関する基礎研究」に関して坂田委員より説明，ならびに質疑応答があった（資料 1）。

（質疑応答）

- ・ モデル試験体において，グラウトの有無によるせん断力算定法を説明して欲しい。

- ・ グラウト，コンクリート，PC 鋼棒のめり込みについて説明して欲しい。
- ・ 変形はどこまで？
- ・ 想定する地震レベルは？
→各質問に説明。旧基準建物であるため，現行基準に則った設計は難しい。
- ・ 実建物でグラウトは？
→実施工でアンボンドの利用は，3 社（建研・オリエンタル白石・ピーエス三菱）のうち 1 社（オリエンタル白石）だけ。建研は全てグラウト。

(3) 次回の開催日時について

今回は，2012 年 11 月末に行う。正式日程は別途メール審議で決定する。

以上 （記録：佐藤）